



てらるる



2023年
12月
No.912

■発行所 ■ 日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教 「主の母、マリア」

日本福音ルーテル久留米教会・田主丸教会・大牟田教会・長崎教会牧師 西川 昂子
「マリアは言った。『私は主の仕え女です。お言葉とおおり、この身になりますように。』」
(ルカによる福音書 1:38 / 聖書協会共同訳)



「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」ルカ福音書の受胎告知の場面で、天使ガブリエルがマリアに告げたこのあいさつは、クラシックの楽曲としても有名な「アヴェ・マリア」の元となった詞の一つです。

「アヴェ・マリア」は伝統的に「聖母マリアに対し、罪のとりなしを祈る祈り」として唱えられてきたものですが、現代のルーテル教会やプロテスタント諸派においては、マリアを信仰対象とすることはありません。マルティン・ルター自身は当初、アヴェ・マリアを祈っていたこともあるように

すが、彼自身の中で福音理解が深まってくつれ、ルターの中でマリアを信仰の対象とすることはなくなっていくます。しかしルターは、その後マリアを軽視していったわけではなく、彼女が「主の母」「神の母」として尊敬されることはふさわしいことである、というようなことを言っています。しかしそれもまた、マリアがもともと私たちとは違う「聖なる方」であつたから、というのでは

ありません。マリアという人を私たちが想像しようとするとき、絵画などの、すでに母として完成された、包

容力のある大人の女性である「聖母マリア」を思い浮かべがちではないでしょうか。しかし、この天使の知らせを受けたときのマリアは、おそらく当時の結婚適齢期とされる年齢の直前、10代前半の少女であつたと考えられる方が自然です。

それくらいはまだ幼いと言ってもよい少女が、天使に思いがけないことを告げられる。実際、ここでマリアは当初、喜びよりもむしろたいへん当惑し、考え込んでいます。マリアの身に突然起こつたことは、とうてい信じられないようなことです。そしてこの先いつた

どのようなことが起こるか、そもそも家族や婚約者ヨセフをはじめ、周囲の人々がこのできごとを信じてくれるかといったことも含めて、この時のマリアにとって、この受胎告知は、場合によってはマリア自身のいのちの危険さえ引き起こしかねないできごとであつたはず。このとき、マリアが天使の知らせを受け

入れることは、神の子を身ごもることに伴って起こる、それらの困難をもまた引き受けるということでもありました。

最終的にマリアは、天使の言葉に励まされ、「お言葉とおおり、この身になりますように」という言葉で、その知らせを受け入れます。おそらくその不安がなくなつたわけではないでしょう。ヨセフとの関係、周りの人からどのように思われるか、また、まだ人として未成熟な自分が母となっていくこと、マリアは、これから自分の身に起こること一つ一つを生きていくことになり

ます。私たちがマリアの中に模範となるものを見るとするならば、それは伝統的にマリアに付加されがちであつた「清らかさ」「純潔」といったイメージではなく、このとまどいや恐れを抱えながらも、自分の中で始まるうと



「受胎告知」エル・グレコ作・1590年・油絵・大原美術館蔵

業を受け止めた、その「神に信頼して歩みだす

姿」ではないでしょうか。そしてその中で、「聖霊があなただに降り、いと高き方の力が」マリアに宿り、マリアを包むのです。これから、自分に起こることを引き受けていこうとするマリアの中に、生きて働く神のいのちが宿っている。マリア自身はただの少女にすぎませんが、しかしそのマリアをとおして、確かに神様のみ業が進んでいったのです。

今から2000年前、少女マリアの中で始まつたできごとによって、この世界のただ中に、神のいのちが受肉しました。神は、私たちの世界のただ中で、ひとりの小さな少女の中から、救いのできごとを始められました。私たちもまた、その神様のいのちに信頼したいと思ひます。私たちの現実の中にも訪れてくださる神様のいのちの働きを信じ、その方が与えてくださる人生を、勇気をもつて引き受けて歩みたいのです。

私と言ってきたことは間違いではなかつたんだと改めて思ひました。挨拶をするときその人の名前を言うとき自分には思ひませんでした。

このようなことを言われたこともあります。「家の近くに〇〇の木があつたのに、香りがしてここにもあつたんだと初めて気づきました。」



伊藤早奈

目立たないとわかつてもらえないことがあります。「私はここに居るのに」そのようなきががあります。名前さえ呼んでももらえないものが、それがあつたことが少なくないのです。



香りや花、他と比べて

リレーコラム

「全国の教会・施設から」⑦



日本福音ルーテル 津田沼教会

関野和寛 (日本福音ルーテル 津田沼教会牧師)

ルーテル津田沼教会は、1950年に開始されたルーテル市川教会の中山伝道所が前身となり、宣教を開始いたしました。1989年、千葉県習志野市の住宅街、現在の場所に移転し、今日に至っています。最近では30〜40名の対面、約60名のインターネット参加、合計約100名の方々と礼拝を行なっています。

またインターネットを通しての献金をお献げいただいています。礼拝参加者の4割は既存の教会員、3割は新来会者、3割は他の教会の方々です。会員は高齢世代の方が多いですが、同時に若者も多く参加しています。

昨年より信徒牧会者育成を行い、信徒による牧会を実践しています。はじめて教会に来た人々への対応、健康上の理由で礼拝に参加できない方々への訪問やケアを信徒が主体的に行っています。今年、東教区、本教会から借入を行い外壁補強工事、そして駐車場を

ASFアルト化する事ができました。更には大きなピザ窯兼バーベキュー台を備える事ができました。

また教区の伝道支援制度を用いて75インチ大型モニターを導入、牧師不在時の配信礼拝を試みたり、勉強会、映画会などを行なっています。

教会の課題としては教会がまだまだ地域の人々が集う場となれていない事があげられます。ハードが整えられた今、今年11月にオープンチャットを行い、キッチンカーを呼び、ピザ窯でピザを振る舞い、ミニバザー、音楽会、牧師のレクチャーなどを盛り込んだイベントを行いました。ルーテル津田沼教会は「時代の灯火となる」を宣教テーマに掲げております。

未来の教会の担い手を育て、そしてこの地に生活する人々の心の拠り所となる教会を目指しています。

また、70周年記念事業として新園舎が与えられ、園聖句を「わたしは雲の中にわたしの虹を置く」(創世記9章13節)とし、Reo(再出発)しています。園には虹を架けられた

神様がいつも一緒にいて守っていて下さることを感じることが出来る場所があります。階段踊り場のスタンドグラス5枚(平和の虹と鳩・馬小屋のイエス様・ひつじ・ぶどう・天使、見上げると虹がイメージできる)に「のへや」(ランチルーム)、ノアの箱舟の図書室、園庭への虹の階段etc. 子どもたちの笑顔で平和と希望がいつぱいになるようにと祈りが込められています。

この70年の歩みに神様と関わりつづけた全ての人に感謝して、これからもこの玉名の地でみんなに愛される玉名ルーテル幼稚園としてしっかりと歩んでいきたいと思っております。

認定こども園 玉名ルーテル幼稚園

上村理恵 (認定こども園玉名ルーテル幼稚園園長)

本園は熊本県の北部玉名市の中心部にあり静かな住宅街に位置しています。1954年に設立された今年70周年を迎え、2015年に幼稚園から幼保連携型認定こども園に移行し、現在、0〜5歳児の123名が在籍しています。

初代園長の藤田先生は教育理念に「愛と信頼・感謝と希望」を掲げられ、愛されて育つ子どもは人を信頼することを覚え、それは感謝の気持ちを通じて、自分も人の役に立ちたいと希望を持つ人として成長することができるといふ、この想いが受け継がれてきました。これからこの理念を胸に、保育の現場に立たせていただきたいこと、使命の重さを謙虚に受け止めて用いて下さる神様に感謝し、いつも子どもたちと共に成長できる一人でありたいと思っております。

また、70周年記念事業として新園舎が与えられ、園聖句を「わたしは雲の中にわたしの虹を置く」(創世記9章13節)とし、Reo(再出発)しています。園には虹を架けられた

神様がいつも一緒にいて守っていて下さることを感じることが出来る場所があります。階段踊り場のスタンドグラス5枚(平和の虹と鳩・馬小屋のイエス様・ひつじ・ぶどう・天使、見上げると虹がイメージできる)に「のへや」(ランチルーム)、ノアの箱舟の図書室、園庭への虹の階段etc. 子どもたちの笑顔で平和と希望がいつぱいになるようにと祈りが込められています。

この70年の歩みに神様と関わりつづけた全ての人に感謝して、これからもこの玉名の地でみんなに愛される玉名ルーテル幼稚園としてしっかりと歩んでいきたいと思っております。



箱舟の図書室

改 宣 教 宣 室

永吉秀人総会議長 (日本福音ルーテル 蒲田教会牧師)

このコラムでは、これまでの「議長室から」を改め、「宣教室から様々なルーテル教会関連の働きについて」紹介していきます。

「改」というシンボルの漢字は、「議長室から」を改めたという意味では「ごいません。これは今期の旗印として「悔い改め」の意味で掲げた「改」です。

マルティン・ルターは「九十五ヶ条の提題」の第一條を、「私たちの主であり師であるイエス・キリストが「悔い改めよ...」(マタイ4:17)と言われたとき、彼は信する者の全生涯が悔い改めであることを欲したもうたのである」と書き始めています。

教会の宣教の歴史を振り返るとき、1517年の宗教改革運動の始まり以来、今日に至るまで、私たち教会は順風のごときにも逆境の中でも宣教における様々な創意工夫を重ねてまいりました。今、改めてルターの言葉を聴き直すときに、教会もまたその全生涯が悔い改めとなるよう、イエス・キリストが欲しい

「熊本地区盲人キリスト信仰会」があり、活動、交流が行われています(名称はそれぞれで、「盲信徒会」といった呼び名が主流かもしれません)。皆様のお住まいの地区で、はいかがでしょうか。もし活動をお聞かせいただければ、ぜひご参加ください。喜ばれると思います。

「熊本地区盲人キリスト信仰会」があり、活動、交流が行われています(名称はそれぞれで、「盲信徒会」といった呼び名が主流かもしれません)。皆様のお住まいの地区で、はいかがでしょうか。もし活動をお聞かせいただければ、ぜひご参加ください。喜ばれると思います。

「熊本地区盲人キリスト信仰会」があり、活動、交流が行われています(名称はそれぞれで、「盲信徒会」といった呼び名が主流かもしれません)。皆様のお住まいの地区で、はいかがでしょうか。もし活動をお聞かせいただければ、ぜひご参加ください。喜ばれると思います。

「熊本地区盲人キリスト信仰会」があり、活動、交流が行われています(名称はそれぞれで、「盲信徒会」といった呼び名が主流かもしれません)。皆様のお住まいの地区で、はいかがでしょうか。もし活動をお聞かせいただければ、ぜひご参加ください。喜ばれると思います。

が与えられて来たように、宣教とは「派遣されたところに立ち止まる」という歴史の積み重ねであったように受け止めています。

この「宣教室から」というコラムで、ご紹介する一つの働きは、まさに派遣されたところに立ち止まらずに生きる人々と出会い、そこに生きる人々と出会い、そこに寄り添われるキリストと共に生きていく証しとして、私は感謝をもつて受け取っています。

その二つ三つの場から、派遣された人々の立ち止まる勇氣に学び、立ち続ける忍耐と連帯し、そこで分かち合われている希望に、読者として私たちがあずかるならば幸いです。

エキシメニカルな 交わりから

⑩日本盲人キリスト教 伝道協議会

角本浩

(日本福音ルーテル神水教会・荒尾教会・松橋教会牧師)

日本盲人キリスト教伝道協議会(以下、通称

の「盲伝」と記します。)で理事をしている角本です。理事会は議長、副議長、書記の執行部の方々をはじめ、NCC加盟教会から選出されており、日本福音ルーテル教会からも一人選ばれています。現在、角本がこれを担っており、今回、理事としてこの団体について書くよう依頼されました。

盲伝はコロナ禍の2021年に70周年を迎えました(その記念感謝会は翌2022年に開催)。今、私の手元にある点字キリスト教月刊雑誌『信仰』の最新号は1

235号となつています。盲伝の公式ホームページには、「その母体となった「盲人キリスト信仰会」の歴史は大変古く、盲伝の発行している点字雑誌『信仰』(中略)……この雑誌『信仰』の創刊は1915年(大正4年)にさかのぼります。」と記されているとおり、100年以上のつな

り、100年以上のつながりがあることがわかります。この文中にある「盲人キリスト信仰会」という名称は今も用いられているところがあります。私が住んでいる熊本でも

「教会讃美歌 増補」解説



解説④⑦ 増補51番 「愛がないと」

北川逸英 (日本ルーテル教団池上教会 杉並聖真教会牧師)

何度か被災地を訪問しました。12年が経ってもまだ人の心には不安が埋もれている。だからこれからも信仰と希望を持って、愛といのちを運び続けます。

この歌詞は2011年7月、オートバイにずんどう鍋と肉、スパイスなどを満載し、東北に向かう途中で浮かびました。仙台まで何十kmもある畑の中で、磯の香り

解説④⑧ 増補51番「愛がないと」・26番「かみさま わたしのとらび」とは「だれ」曲解説

西川亜紀 (日本ルーテル教団旭川聖パウロルーテル教会会員)

避難中の方々へ、河田チャップレンと、JELCの方々と共に炊き出した時に聞いた、ご夫婦の言葉が甦りました。

北の国からこんにちは。日本ルーテル教団から讃美歌委員会に加わっております西川です。今回は教会讃美歌

「みんな変わってしまつた。海岸線にあった松林の防風林は、井にのる海苔のように剥がれた。畑の真ん中には、流された舟や車が突き刺さり、土に埋もれている。あつたはずの物が無くなり、あつてはならない物がそこに有る」

れ」の作曲解説をいたします。まず51番「愛がないと」には元々は別のメロディが付いておりました。それは10年以上前に杉並聖真ルーテル教会に通っていた頃、讃美歌を作りたいたいと思いつて作った曲でした。ところがその一方で詞がなかなか思いつかず、お忙しい北川逸英先生にお願いして詞を作っていたきました。年月を経て新作讃美歌として増補に収録

この海から遠く離れた場所にも、津波が押し寄せてすべては埋もれてしまつた。それでも4ヶ月後、被災者の方々とボランティアの方々が、懸命に努力された事により、見事に高速度路は復興しました。

録していたくことになつた時、北川先生より詞に東日本大震災に対する復興支援の思いが込められていることをお聞きして、それならば私も同じ意識を持って作曲したいと考え、メロディを作り直しました。26番「かみさま わたしのとらび」とは「だれ」曲解説では、讃美歌委員会の公募で採用された奈良部慎平さんの詞に曲を付けさせていただきました。シンプルで分かりやすく、元気なイメージの詞でしたので、教会学校の子供達を思い浮かべながらあつという間にできました。ポイントはずで転調するところでしょうか。詞の前半にある疑問に対して「みんなともだち」となりびと」と突き抜けた明るさで答えるようなイメージで作りました。ぜひ皆様の教会でも賛美していただけると思います。

西教区主催「原発問題」学習会報告

秋山仁

(日本福音ルーテル豊中教会 神戸東教会牧師・喜望の家代表)

日本福音ルーテル教会は、2012年の全国総会で、「原発問題」について各教区において学習会を行うことを申し合

わせていましたが、西教区としては本当に遅ればせながら、9月30日(土)午後1時から、大阪教会会議室を会場にして、総台教会牧師でNCC(日本キリスト教協議会)平和・核問題委員会委員長の内藤新吾牧師を講師として、「原発問題」の学習会をいたしました。

内藤牧師の原発問題との取り組みは、名古屋

に赴任した時に出会った一人の野宿労働者から聞いた、原発の労働現場の話が出発点だったそうです。労働者への安全対策がまったく無視され、労働者は常に被曝のリスクに晒され、そして健康上の保障も何もないまま使い捨てにされていた原発の労働現場。その実態を知ったことから、内藤牧師は原発問題に関わり始めたそうです。

世界の教会の声

浅野直樹 Sr. (世界宣教主事)

イスラエルとパレスチナの平和を求める祈り

エルサレムにある諸教会のリーダーたちは、イスラエルとパレスチナの平和を覚えて、10月17日を祈りと断食の日と定めました。この日、今

ました。そして、何よりも原発の出発点は、広島・長崎に投下された原爆の開発であり、核に関わる全ての国際機関も、核大国による核の管理のためのものであり、「原発は核の平和利用である」という宣伝文句が欺瞞でしかないこと、原発を推進する根本的な動機が、核兵器の開発にあることなどが指摘されました。それはまた、日本政府と産業界による原子力政策の動機でもあるという指摘でもあります。最後には、福島でのALPS処理「汚染」水の排水問題との関連で、核廃棄物の再処理工場からの排水問題について、イギリスやフランスの実例、あるいは六ヶ所村の実態をもとに話され、私たち自身が「正確

な情報と資料を注意深く収集することの必要性を強く感じさせられました。

周知が遅かったため、会場参加が講師を除いて10名、ZOOM参加者は3名と少人数でしたが、2時間におたり内容の濃い学習会を持つことができました。

今回の学習会を通して、例えば「原発問題」に関する映画の上映などという、教区、各地区、各個教会での継続的な取り組みについても、大きな示唆を得ることができました。この

民の安全と平和のために祈るよう呼びかけています。

この呼びかけにこたえてアメリカ福音ルーテル教会(ELCA)は10月17日を祈りと断食の日として、インドネシアのルーテル教会(HKBP)は「戦争の終結、人道支援、平和と正義」の祈りをささげることと決定しました。ノルウェーのルーテル教会の監督は信徒に向けて平和の祈

りを世界のクリスチャンとともに祈り、戦争の犠牲になつたすべての人を覚えてローソクを灯すことを呼びかけました。

カトリック教会のフランシスコ教皇は世界の「聖地の教会と共に祈り、10月17日の火曜日は祈りと断食を」と声をあげました。世界キリスト教協議会(WCC)は「教会、そして心ある人々は、平和のために一

致して祈り、愛する人を失った人々と辛い思いをしている人々への支援を祈り求める」よう呼びかけました。

https://www.lutheranworld.org/news/lutherans-worldwide-join-prayer-peace-israel-and-palestine



な情報と資料を注意深く収集することの必要性を強く感じさせられました。

周知が遅かったため、会場参加が講師を除いて10名、ZOOM参加者は3名と少人数でしたが、2時間におたり内容の濃い学習会を持つことができました。

今回の学習会を通して、例えば「原発問題」に関する映画の上映などという、教区、各地区、各個教会での継続的な取り組みについても、大きな示唆を得ることができました。この

民の安全と平和のために祈るよう呼びかけています。

この呼びかけにこたえてアメリカ福音ルーテル教会(ELCA)は10月17日を祈りと断食の日として、インドネシアのルーテル教会(HKBP)は「戦争の終結、人道支援、平和と正義」の祈りをささげることと決定しました。ノルウェーのルーテル教会の監督は信徒に向けて平和の祈

りを世界のクリスチャンとともに祈り、戦争の犠牲になつたすべての人を覚えてローソクを灯すことを呼びかけました。

カトリック教会のフランシスコ教皇は世界の「聖地の教会と共に祈り、10月17日の火曜日は祈りと断食を」と声をあげました。世界キリスト教協議会(WCC)は「教会、そして心ある人々は、平和のために一

致して祈り、愛する人を失った人々と辛い思いをしている人々への支援を祈り求める」よう呼びかけました。



一日神学校報告

宮本新
日本ルーテル神学校教員
日本福音ルーテル教会牧師

今年の一神学校は、9月23日(土・祝)に4年ぶりにキャンパスに皆さまをお迎えしての対面開催となりました。感染対策が継続されるなかではあるものの、チャペルでの開会礼拝は、久しぶりに大勢の人たちと賛美の声をあわせ、聖餐にあずかり、言葉の糧を共にした恵み深くもまたよろこびのひとときでした。



シンポジウムの様子

「関東大震災100年とディアコニア」をテーマにしたシンポジウムでした。コーディネーターは石居基夫学長、パネリストには、ともにルーテル学院の卒業生でもある高橋睦

氏(東京老人ホーム、常務理事)と山内恵美氏(母子生活支援施設ベタニヤホーム副施設長)をお迎えしました。いずれの施設も今から100年前、関東大震災時のルーテルの救援事業にルーツがあります。やがてそれぞれの働きは、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームなどからなる社会福祉法人東京老人ホーム、また墨田区・江戸川区で母子生活支援施設と保育園を運営する社会福祉法人ベタニヤホームへと歩みを進めてきました。

シンポジウムでは、各パネリストから施設創立の歩みと祈り、そして今日まで施設が大切にされてきたことをお分かちいただきました。普段顔をあわせる機会は多くはないかもしれませんが、教会も施設も共にルーツをひとつにして、わかちあつてきたビジョンがあることを確かめるようなひと時でした。あらためて年月とは、ただの数字ではなく、その時代を生きて歩んできた数多くの人たちの足跡と、その祈りの束を伝えるものと思われされました。ディアコニアの100年とはそういう意味なのかもしれません。

「聖書日課・読者の集い」報告

松本義宣
ルーテル「聖書日課」を
読む会 発行委員代表
日本福音ルーテル東京教会
東京池袋教会
板橋教会牧師

久しぶりの「聖書日課・読者の集い」が、10月23日(土)日本福音ルーテル大阪教会(宿泊は「ホテル・ザ・ルーテル」)を会場に行われました。昨年はオンライン(Zoom)開催でしたが、対面(リアル)では4年ぶりの再開、参加者にとっては「再会」となりました。ブランクのた

め以前ほどではありませんでしたが、延べ34名の参加者でした。今回は、大阪教会の大柴譲治牧師を講師に、「ローマの信徒への手紙」を学びました。先生のご専門である牧会学・カウセンシングと長い牧会経験からの博覧強記、縦横無尽な語り口から、みことば(ローマ書)を通して福音の真髄に触れるお話しを伺いました。2日日夜の恒例「音楽と賛美の夕べ」では、京都教会員の泉川道子さんと大阪教会員で声楽家の森本ま

どかさんのご奉仕で、「教会讃美歌増補分冊1」からルターの教理コラールを歌い、美しい日本歌曲やオペラ・アリアも堪能しました。聖書日課の読者は、本来は各々の場(個人、家庭、諸施設、職場等)で「聖書日課」を通して「みことば」を共有していますが、この会は、顔と顔を合わせて、その恵みと喜びを分かち合う時、共に聖書の学びをするプログラムとして行われてきました。が、コロナ禍のブランクで様々な変化があり、以前は、聖書日課執筆者の研修も同時に行われて、読者と執筆者の交わりの

時を持ちましたが、執筆者研修は別途オンライン開催となり、併せて発行委員の交代や事務局機能の移動などもあり、久々の読者の会も変化の中にあるのかもしれませんが、しかし、確認できたことが一つ、やはり共に集い、共にみことばに触れることの喜び、元々この「聖書日課・読者の集い」が持つていた意義を、コロナ禍でそれぞれの教会、集会、施設での集えな

い経験を経て、誰もが強く感じたことを、改めて再確認、深く受け止められたのではないかと思います。「聖書日課」の先見性!です。



TNGユース部門主催 リーダー研修キャンプ報告

竹田大地
TNGユース部門長
日本福音ルーテル
天王寺教会牧師

9月4日〜7日、沖縄にてTNGユース部門主催の「リーダー研修キャンプ」が開催されました。本プログラムは、教会における次世代の担い手を養成するプログラムとして企画されています。参加者は2名でしたが、その分濃密に沖縄の戦争遺構(ガマなど)、普天間基地前で

の「普天間基地ゲート前で、ゴスペルを歌う会」、辺野古基地建設地前での抗議活動などをじっくりと体験し、伊江島では戦後、アメリカ施政権下の沖縄で米軍強制土地接収に反対する反基地運動をした阿波根昌鴻氏と活動を共にした謝花悦子氏からお話を聞く機会をいただきました。

参加者たちは、聖書に学び、実際に沖縄に立つことにより、そこに息づく人びとの声にならぬ声を聞くことの大切さ、弱くされ排除されていく様子をの当たりにすることにより様々な思いと、決意を与えられ「二人一人の心を大切にすること」がこれからの教会を、世界を担っていく私たちに今最も求められていることだと感想に記しています。

来年も沖縄で開催する予定です。どうぞその際には青年の皆様にご案内ください。

第31回春の全国ティーンズキャンプ開催

「テーマ」「最強の絆」
〔日時〕2024年3月26日(火)〜28日(木)
〔会場〕千葉市少年自然の家(千葉県長生郡長柄町針ヶ谷字中野159-1-40)
〔参加費〕1万5千円(同一家庭から複数参加の場合は1名につき1万4千円)
〔参加対象〕2005年4月2日〜2012年4月1日生まれの方
〔応募締切〕2024年2月18日(日)

申し込み
公式ブログよりお申し込みください。
<https://ngeens.hanna.co.tv/e9751928.html>

同時募集
スタッフ募集
〔募集人数〕若十名
〔募集資格〕
2005年4月1日以前生まれの方
キャンプの全日程に参加できる方
事前に開催されるZoomでの研修会に参加できる方

申し込み
公式ブログよりお申し込みください。
<https://ngeens.hanzotv/e9751974.html>



スタッフ申し込み用 QR コード



参加申し込み用 QR コード